

株式会社北國銀行 様



【企業プロフィール】（注：企業データは2015年3月末時点）

- 設立 1943年設立
- 本店所在地 石川県金沢市
- 店舗数 石川県内103店舗
- 資本金 26,673百万円
- 業務内容
 - ・預金業務、貸出業務
 - ・商品有価証券売買業務、有価証券投資業務、内国為替業務 等
- 従業員数 1,780名（嘱託・ビジネススタッフ除く）
- POWER EGG2.0 導入時期
 - 2009年12月： POWER EGG2.0 について認知
 - 2010年1月： 導入検討（運用移行検証）開始
 - 2010年8月： POWER EGG2.0導入推進方針を策定
 - 2011年2月： POWER EGG2.0導入決定
 - 2011年10月： 稼働開始
 - 2015年3月： POWER EGG 2.0 Ver2.7にバージョンアップ
- 稼働ライセンス数 約3,000ライセンス
- 稼働機能 グループウェア、汎用申請ワークフロー、ファイル管理、Webデータベース

Webデータベースを使用し、100種以上の銀行業務用テンプレートをフル活用！ 《Webデータベース》《ファイル管理拡張オプション》《機能間横断検索》が ペーパーレス化推進の3本柱

北國銀行様では、2011年10月からPOWER EGG 2.0が稼働しています。その数年前から銀行業務における生産性向上に取り組みれていた同行でしたが、改善手段の1つとしてITインフラの見直し、とくにグループウェアおよびワークフローシステム刷新の必要性を重視され、いくつかの製品の比較検証を経てPOWER EGG 2.0の導入に至りました。

以前、導入事例取材に伺わせて頂いたことがあり、今回が2回目の取材となります。今回の取材は2015年5月に行われました。

稼働から3年8ヶ月になりますが、生産性向上を実現するPOWER EGGの導入効果『見える化／ペーパーレス化／スピード化』は、既に様々な業務処理を通じて北國銀行様内にしっかりと定着しています。そして前回取材時に注目されていたWebデータベースも、「PDCAを回したり、目標管理を行うために不可欠のツール」（杖村専務）として、今や100種類以上の金融機関業務フォーマット（業務処理用テンプレート）が構築・活用され、更なる電子化の推進に役立っているとのこと。

▼取材ご協力者



（右）代表取締役 専務 杖村 修司 氏
（左）総合企画部 企画課長 今井 豊 氏

Webデータベース（WebDB）の活用

— WebDB導入時の印象

杖村専務 「もともとPOWER EGGはWebDBの活用を前提として導入計画が立てられました。確かにグループウェアやワークフローの活用により業務効率化・スピード化は大幅に進みましたが、それだけでは営業店からの日々の業務報告などがカバーできず、また従来通り表計算ソフトを使うしかない状況では不十分と電子化に限界があります。

しかしこのWebDBを「管理業務」「営業報告」「人事関連」などあらゆる業務分野で活用することで、紙ベースの報告や申請をなくすことができました。従来の《紙の文化》を変えるには、WebDBを活用して皆で見える化して互いに管理していくようなやり方が必要になります」



今井課長 「その結果、表計算ソフトを使う必要は無くなりました。できることはWebDBでやっていこうよということで、ペーパーレスできるものは一斉に、どんなWebDBで対処するようになりました。

現場から申請をもらい、WebDBでできる業務処理テンプレートを次々と作成しました。従来、表計算ソフトを使っていた人の戸惑いは特に無かったですね。WebDBで処理がラクになる訳ですから…。それに、表計算ソフトを使えなかった人は助かりますよね」



お二人が口を揃えて言う。

「ワークフローに加えてWebDBがあるからこそ、紙ベースの報告や申請をなくすことができる。WebDBがなかったら、現在のように電子化は進んでいなかったでしょうね」

— WebDBは《PDCAを回すためのツール》

WebDBの良さは《PDCAを回すためのツール》であること、すなわち《目標管理推進ツール》であること」と杖村専務。

杖村専務 「例えば、すぐく重宝しているテンプレートの1つである《オペレーショナルリスク報告書》。これは営業店における事務処理上の事故を報告させ、管理・改善してより確実な業務推進を図るために活用されています。オペレーショナルリスクだけでなくシステムトラブルなどもそうですが、その改善・解決を図るためには起きた事象に対して『現象を確認して』→『原因を分析して』→『改善計画を立てて』という形でPDCAを回すことが重要です。これはどんな業務改善にも共通することです。ところが従来はこのPDCAを回す際に、現象確認報告／原因分析報告／改善計画報告を1回1回、別々の書類で提出させるぶつ切りの報告だったんです。これでは意味がない。ところがWebDBを活用することでこの一連の、PDCAサイクルを皆で共有できるようになったんです。

オペレーショナルリスクの管理・改善、システムトラブルの報告・対策、お客様との商談経過の把握など、《見える化》→《情報共有》→《皆で検証可能》と、WebDBがPDCAを回すためのツールとして様々な場面で活用されています。また、本部門員1人1人の仕事の目標管理にも活かされています」

杖村専務によれば、戦略推進やPDCAを回すのに最も重要なのはコミュニケーションだと言う。しかしそれには、口頭伝達・書類伝達だけでは不十分で、ツールを使ったコミュニケーションが必要になると指摘する。

POWER EGGはそうしたニーズに合致し、しかも期待以上の機能を有しており、WebDBでも同行のやり方とPOWER EGGがうまくマッチングしたと評価している。

一 テンプレートは《金融機関業務の電子化ノウハウ》そのもの

2015年5月現在、北國銀行様では約100種類以上のWebDBテンプレートを開発・活用している。いずれも、《金融機関業務の電子化ノウハウ》そのものである。

プロセス管理型 テンプレート

- ・オペレーショナルリスク報告
- ・融資謝絶案件報告

期日管理型 テンプレート

- ・契約書管理
- ・経営会議指示事項管理

一括集計型 テンプレート

- ・営業店報告・集計
- ・部署別入退館時間

杖村専務 「これらのテンプレートは、きっと他行の方が見ると“こんなこともできるんだ！”とビックリされると思います。融資管理、営業推進、事務管理、資金証券、企画、総務、監査、人事、システム、リスク管理部門、法務部門など、銀行業務のあらゆる分野でWebDBが活用されています。POWER EGG導入時からWebDB的な機能へのニーズが強かったため、現状には非常に満足しています」

今井課長 「内容が更新されたら★マークが付いて、アシストメッセージが送られてくる。これが助かりますね。テンプレートがたくさんあるので、自分で探して見に行くのはひと苦労ですが、こうした点も気が利いていますね」

電子化推進の3本柱

金融機関の中でも電子化推進においてはトップレベルにある北國銀行様では、更なる推進強化を図るために“電子化推進の3本柱”を重視している。

その1本目は前述してきた《WebDB》である。

一 2本目の柱は《ファイル管理拡張オプション》

同行では従来、各種マニュアルがマニュアルシステムと従来グループウェアに分散保存され、検索しにくい状況にあった。これでは電子化を妨げる要因になる。そこで全てのマニュアルをPDF化しPOWER EGG《ファイル管理》に移行させ、一元化&検索性の向上を図ることにした。しかし残念ながら、従来のPOWER EGG《ファイル管理》では機能的にもの足り無いという課題もあった。

そこで、POWER EGGユーザ会(PEACS)の《技術製品要望分科会》に、「探したいファイルがハイライト表示されれば見つけやすい」、「もっと検索スピードがアップすれば、より利用しやすい」などの機能追加要望を出したところ、多くのユーザ共通の要望であるということがわかり、POWER EGG Ver2.6に反映された。そして《ファイル管理拡張オプション》は北國銀行様の電子化推進強化の2本目の柱となったのである。

杖村専務 「従来のシステムをカスタマイズしていたら何千万円から何億円もの開発費用が生じていたと思います。また、そのシステムに対するメンテナンス費用も生じ、事実あるITメーカーに見積依頼したら数億という数字も出てきました。一方、POWER EGGユーザ会で提案したら前向きに開発検討され最新バージョンで新機能として搭載…ですからね。これはありがたい。億単位のコスト削減効果と言えます」

一 3本目の柱は《機能間横断検索》

今井課長 「WebDBとファイル管理拡張オプションにより、紙が無い状態、ペーパーレス化は推進されます。でも、どこに何があるのかが分からないと不便です。検索性の問題ですね。従来はマニュアルシステムなどが別に稼働していたので、他のシステムも含めて機能間を横断して検索するのは無理でした。しかしPOWER EGGの場合、社内メールもスケジュールもファイル管理も、一元化されています。であれば、あちこちにあるデータが機能横断で全部検索できないと困る、きっとできるはずだ、と考え要望を出しました」

これはやはり、他のユーザにも共通する要望でした。そしてこの《機能間横断検索》も標準機能として追加された。

杖村専務 「これで電子化が更に加速しました。《WebDB》、《ファイル管理拡張オプション》、そしてこの《機能間横断検索》と3つのどれが欠けていても本当の電子化はできません。当行が全国有数の電子化先進金融機関であると自負しているのは、この3本柱が揃っているから、またユーザ会の成果もしっかり享受できているからだと思います」

POWER EGG稼働以降の変化と効果

一 ワークスタイルの変化

～《見える化》によるステータス管理とオープン化

お二人によると、やはり《見える化》に伴うワークスタイルの変化が著しい、という。

杖村専務 「まず仕事の“やりっ放し”がなくなりましたね。なぜなら、POWER EGGで簡単に進捗管理ができますから。しかも一覧になっていて、上長から部下まで見える化されており、やりっ放しになっている案件、処理スピードが落ちて遅滞している案件などが全部丸見えです。これは担当者にとってはけっこうプレッシャーでしょうね。役員も例外ではありません。専務の私だって仕事の進め方、成果を全行員や役員から見られています」

一 本部の仕事95%はPOWER EGGで片付く

まだまだ強化したい面はあるが、案件処理のスピードは格段にアップしているという。また本部業務の場合、今や95%の仕事がPOWER EGGの中ですべて完結すること。杖村専務自身の仕事もそうで、スケジュールやToDoなど全て完了してきれいになれば「やれやれ今日もお疲れさま」という感じである。最近ではタブレット端末を増やしたので、出張先や海外でも全く問題ないという。

一 POWER EGG稼働による効果

北國銀行様では2010年以降《生産性2倍運動》という施策の実施、ITシステムの見直しを含め、様々な業務改革に取り組んで来た。POWER EGGの導入～稼働もその一環である。

杖村専務 「最も顕著なのは残業代削減でしょうね。みんな仕事の処理スピードが格段に上がり、確実性・効率性も向上しました。結果、皆帰る時間が以前と比べて大幅に早くなりました。定時は5時半ですが、だいたい皆、6時台には帰っています。その結果、以前は年間で10億円弱要した残業代が約2億円で、以前の1/5に削減されました。また、ここ10年で店舗数が155店から103店に、行員数が2,700名から1,750名にスリム化されました。一方その間の業績は右肩上がり《生産性2倍運動》の成果が出ています」

今後の展開

次の課題は更なるスピードアップ。

実は北國銀行様で今導入されているタブレット端末が、近々300台増える。合計2,300台となり、行員1,750名およびパート500名のほぼ全員がPOWER EGGを活用できるようになる。正行員もパートも関係なく北國銀行で仕事している人全員の情報が共有化され、しかもオープン化されることにより、下からも上からも行内全体が見渡せるようになるのだ。

POWER EGGの導入・稼働により一気にペーパーレス化・電子化を推し進めてきた北國銀行様。WebDBのフル活用、ファイル管理拡張オプションや機能間横断検索の活用により、更なる電子化が進んでいる。そして今度はスマートデバイスを活用して全員で情報共有し、よりスピーディな業務処理の実現を目指している。

杖村専務 「ご興味のある金融機関の皆様、どうぞお気軽にお尋ねください。お役に立つようでしたら当行で開発・活用している金融機関業務テンプレートも提供いたします。ご活用ください」

金融業界に心強いPOWER EGGユーザが誕生している。

ディサークル株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-36-1
住友不動産千代田ファーストウイング
TEL:03-3514-6060 FAX:03-3514-6069
<http://www.d-circle.com/>

取り扱いパートナー

※POWER EGGはディサークル株式会社の登録商標です。
※その他記載されている会社名、製品名およびサービス名等は各社の登録商標または商標です。
※本事例に記載された情報は初掲載時のものであり、閲覧される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。